

総合診療医学

担当指導医師

●内丸メディカルセンター

救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野

教授：下沖 収

講師：高橋 智弘

助教：山田 哲也

非常勤講師：遠藤 秀彦、加藤 博孝、菊地 大輝、高橋 宗康

救急・災害・総合医学講座救急医学分野特任講師：星川 浩一

基本方針：

1. 基本理念

(1) 分子生物学的な医学の知識・技術の加速度的な進歩を背景に、現代の医療は高度化、専門分化し、臓器単位、疾病単位で病をとらえてきた。しかし、人間は人体としてあるだけでなく、心理的、社会的背景の上に各々に物語(Narrative)を持った存在である。患者さんやその家族・周囲の人達にとって、病とは「疾病(disease)」としてあるだけでなく、それぞれの人生に意味をもった「病い(illness)」の体験である。本学は、「医療人たる前に誠の人間たれ」を学是とし、全人的地域総合診療を理想に掲げている。本実習ではその規範に立ち返り、「患者さんを一人の人間として総合的にみる」ことの意味と実践に努める。

(2) 高齢化により疾病構造とともに必要とされる医療が変化した。キュアからケア重視、病院完結から地域連携、慢性疾患や多疾病罹患への適切な対応、人生の最期に関わる倫理的な意思決定など複合的な課題を解決できる医療者が求められている。社会的なニーズから総合診療に期待されている役割を理解する。

(3) 診療所、中小病院から大病院、大学病院にいたるまで、診療の場の多様性に依りて、提供すべき医療と総合診療の役割が変化することを理解する。

(4) 疾患のごく初期の診断を確定するのが困難である未分化で多様な訴えに対し、標準的な医療面接と身体診察から診断推論し、診断に至るプロセスを体験し、理解する。

2. 実習の基本方針

(1) 実習に対する期待やそれまでの学習経験を尊重し、上記の基本理念を前提としながら、実習の始めに個別の学習目標と計画を教員と共に検討する。実習終了時にその目標と計画が達成できたかを振り返る。

(2) チーム医療の重要性を認識し、自らも医療に参加する一員の自覚を持つ。そのために、身なり、挨拶や言葉遣い、患者さんへのプライバシーの配慮など、医師としてあるべき接遇の態度を身につける。

(3) 大学附属施設では経験できない実践的地域医療は、地域の小病院や診療所こそが実習の場として相応しい。それぞれの地域で行われている実際の医療とともに、“地域医療マインド”についても理解し、感じ取る実習を行う。

実習内容：

1. 本院での実習（2週間）

- (1)指導医とともに日常の医療行為に積極的に参加する。外来では特に、初診患者さんの病歴聴取と身体診察を実際に指導医の監督のもと実践する。
- (2)特に自身が診察した症例を中心に、症例検討でプレゼンテーションを行う。
- (3)総合診療の果たすべき役割、総合診療の理論、臨床推論などについての Small Group Discussion(SGD)を行う。
- (4)入院患者がいる場合は、主治医・担当医と共に治療計画の立案に参加する。
- (5)超音波検査など非侵襲的な検査を中心に、指導医の指導・監督のもと一部の手技の実習を行う。

2. 協力施設での実習（2週間）

町立西和賀さわうち病院、奥州市国民健康保険まごころ病院、国民健康保険葛巻病院、一関市国民健康保険藤沢病院などにおいて、一般外来、訪問診療、介護・福祉施設など含めた包括的な地域医療に参加し、プライマリ・ケア、総合診療の果たすべき役割について体験する。また地域包括ケアセンター、行政機関など地域包括ケアシステムについても理解・体験する。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診療用機械	超音波断層装置	1	頸部、胸部、腹部の評価
診療用器具	聴診器、神経診察器械、耳鏡眼底鏡等一般診察器具	1	身体診察
視聴覚用機材	ホワイトボード	1	SGD
視聴覚用機材	ノートパソコン	1	症例検討、SGD
視聴覚用機材	スクリーン	1	症例検討、SGD
視聴覚用機材	プロジェクター	1	症例検討、SGD
視聴覚用機材	遠隔会議（Zoom）用マイク、スピーカー	1	実習病院での症例検討、SGD
その他	カラーデジタル複合機(Canon iR-ADVC2230F)	1	講義資料等作成・配布